

「河川・水防災技術分野」（平成30年度採択）

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
超広帯域SA センサによるコンクリートダム堤体内部のひび割れ進展・評価リモートモニタリングシステムの研究開発	京都大学 塩谷 智基	B
<p>&lt;研究概要&gt;</p> <p>本研究では、コンクリートダムを伝搬する弾性波動の能動、受動計測を通じて得られた成果で、その有効周波数（数Hz～MHz）までの超広帯域が計測可能である改良SA センサを開発した。改良SA センサにより、ダム堤体のひび割れ進展を広範囲に連続計測でき、かつ能動的モニタリング（弾性波トモグラフィ）にも活用できるシステムを提案した。本研究で確立された内部可視化手法は、1冊のマニュアルとして報告書内に収めた。</p>		
<p>&lt;事後評価指摘事項&gt;</p> <p>非破壊でクラックの内部進行を捉える技術としては、興味深い。 ただし、改良SAセンサーによるAE計測の具体的方法等については、実務に実装できるレベルに到達するよう、今後の発展を期待する。</p>		

※評価基準

- A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった。
- B：一定の研究成果があった。
- C：研究成果があったとは言い難い。